子どもたちの心に刻み、地域の絆を確かめる——。未来のために、みんなで はぐくむ「あしたのみどり」

杜の都のみどりをはぐくむことを目的に、2009年にスタートしたあしたのみどりキャンペーン。9年目を迎えた今年は、県内で、みどりや花などがあるお気に入りの場所の情報を「みどりのある風景」として多くの皆さまからご投稿いただくとともに、一緒に植樹活動を行うことで、みどりをはぐくむ活動を広げていくことを目指してきました。今回の紙面では、キャンペーンの趣旨をご理解いただき、みどりをはぐくむために、植樹や花壇づくりなどを希望された、学校・地域・団体の中から、実際に植樹や花壇づくりを行った幼稚園と地域の活動の様子をご紹介します。

園児たちみんなで花壇づくり 感性豊かに成長してほしい

双葉学園 ふたばエンゼル幼稚園

年長組の園児たち一人一人が、ビオラの苗を手にして、はいチーズ！　花壇づくりは、お母さん方や鎌田さん（右端）をはじめ、園長先生、先生方、園の職員の方々、仙台市の百年の杜プロジェクトの担当者などたくさんの手を借りて行われました

園児たちが自分で穴を掘って苗を植えるのは難しいので、先生方やお母さん方が穴を開け、そこに園児が植えていきます。年長組だけでなく、年少組、年中組と全園児が参加し、苗と苗の間には穴を深く掘ってチューリップの球根を植えていました

泉区南中山にある、ふたばエンゼル幼稚園。子どもにとって、「遊び」は学びと生活そのものと考え、同園では「遊び」を大切にしています。そうしたこともあって園庭は、園舎の正面と後方の二つ、道路に面しているものの、後方にある広い園庭では、一角で野菜を作っていただけでした。「こちらにも花を植えて、子どもたちに花を見せてやりたい」。新聞でキャンペーンのことを知った園長の髙橋由美先生は、そんな思いで応募することにしました。

キャンペーンをサポートしている「花と緑の力で3.11プロジェクトみやぎ委員会」（通称：花プロ）代表の鎌田秀夫さんと事前に打ち合わせた結果、まず野菜を育てていた場所にある粘土質の土を入れ替えることに。10月30日に、保護者のお母さん方十数名と職員も参加し、鎌田さんが持ち込んだ機械などを使って、粘土質の土を取り除き、そこに柔らかでふかふかの土を入れ、周りを枕木で囲っていきました。

園長の髙橋由美先生。当日は、園児たちをリードして花壇づくりで大活躍

下準備が整い、花壇づくりが行われたのは11月9日のこと。まずは、園長先生や職員、前回手伝った保護者の方などが集合。鎌田さんより、作業手順や苗の植え方などのレクチャーがありました。作業は、大きく3カ所に分かれて実施することに。かつて野菜を植えていた場所に設けた花壇では、柔らかな土を踏まないで雑草を取れるよう、センターレンガを敷設、力仕事となることから、作業は男性職員が担当することになりました。同じ園庭の奥の傾斜がある場所には、数種類の果樹を植えて果樹園のようにします。さらに正面の入り口の周りにはトゲのないモッコウバラを植えて、その間にスイセンやシラーなどの球根を植え、道行く人の目を楽しませたいと考えていました。

傾斜を使った果樹園づくりは、苗木を植える穴のが主な作業。鎌田さんが用意した苗木の種類は、ユスノイチジク、オリーブ、ブルーベリー、ピワ、リンゴなど。保護者の方々を中心に大きな穴を開け、そこに1本ずつ植えていきました。

男性職員による花壇のレンガ敷きが終わると、いよいよ植える支度。まず、デザイン担当の保護者の方の指示で、同じ色のパンジーやビオラを花壇にまとめて並べていきました。隣の色との対比を考えて、色使いが明るく華やかになるようにと、子どもたちが植えるので、色がしっかり分かれていた方が植えやすいかと思って考えました。「こう話すのは年長組のお子さんの母親で、デザインを考えた髙橋玲さん。今回の花壇づくりに参加されたのは、年長組のお子さんを持つ保護者の方が主体。お子さん子が卒園する前に、幼稚園のために、お手伝いし、思い出として残したい、という思いもあるとか。

はっきりと色分けして花壇に並べられた後、いよいよ園児たちの出番。年少組から花壇に囲まれた苗を取り、先生や保護者が開けた穴に、一人一つずつ植えていきました。引き続き、年中組、年長組の順番で植え、計140名以上の全園児が参加、その後、大人の手で苗の間にチューリップの球根を植え、花壇づくりが完成しました。

「今日植えたことで、子どもたちがもっと花に関心を持って感性が豊かになれば」と願っている高橋園長、幼稚園の先生方や職員、保護者の方、そして園児と、みんなで力を合わせてつくりあげた花壇は、一人一人の心にも小さな花を咲かせたことでしょう。

完成した花壇には「あしたのみどりキャンペーン」の立て札が。ビオラやパンジーが園児たちの目を楽しませ、来春には色とりどりのチューリップが花を咲かせます

地域の拠点となる施設だからこそ 町内会みんなで花とみどりを

三本塚町内会

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた仙台市東部地区。その再生に向けて、市では13カ所に津波避難施設を整備しました。若林区三本塚に建てられた三本塚津波避難ビルもそのひとつ。1、2階が津波被害を受けた消防団施設を復旧したもので、3階が避難スペースになっています。

「3月にできたのですが殺風景で…。町内会でなんとかしようとも考えたのですが、自前でやるのは大変。そうしたところにキャンペーンがあることを教えられて応募したわけです」。こう話すのは三本塚町内会長の小野吉信さん。同町内会では、耕作放棄した畑を地主から借りて花壇をつくったり、バス停や神社の境内にも花を植えたりとこれまでにたくさんの花壇づくりを行ってきました。

町内会長の小野吉信さん。町内会活動が活発で、出席率も高いとのこと

津波避難ビルで花壇づくりが行われたのは11月19日、12月並みの強い寒気の中で気温が上がらず、風も強かったものの、小学生と大人、合わせて約30人が集まりました。

花壇を設けるのは、建物前の駐車スペースの脇と道路側、そして避難タワーのフェンス側の3カ所。まずは花壇のプチ取りをしっかりとするために、レンガを並べることにしました。花プロの鎌田さんがトラックで持ち込んだレンガを、バケツリレー方式でトラックの荷台から花壇の予定地まで数人で手渡しをし、必要な数を置いていきます。次にレンガをフチとして固定するため、土を掘る人、レンガを手渡す人、高さをそろえてレンガを並べる人が一緒になって作業。小学生も交代でレンガの手渡し役をするなど大いに活躍しました。

作業がはかどって、プチ取りが思いのほか早く完成。そこに小型のダンプカーで運んできた土を入れていきました。この土は蔵王町七日原の黒ボク土に有機物を混ぜて1年ほど熟成させたフカフカ状態のもの。スコップでならした後に、一番大きな駐車スペース脇の花壇には、土を踏まないで雑草が取れるよう、通路となるレンガを敷いていきました。その作業を担当したのが鎌田さん。さすがプロの仕事で、レンガを使って美しい曲線を描き、通路で花壇を二つに仕切った形になりました。

植える準備が整ったところで、いよいよ主役の花の登場。一番大きな花壇には、前半分にビオラを、後ろ半分にはスカビオサやカンパニュラ、トラチリウムといった宿根草を植えていきました。「宿根草は株分けでどんどん増えるので、花壇の手入れに来たときは、お裾分けで株分けして少し持っていってください」と話す鎌田さん。株分けしたものを自分のところに植え、大きくなったら友達やご近所にあげれば、宿根草の輪がどんどん広がっていくことになります。「花の輪を広げるのに宿根草は最適のアイテム」との思いから、鎌田さんは花壇に宿根草を使っているとのことです。

手分けして道路側の花壇にはビオラを、避難タワーのフェンス側にはトゲのないモッコウバラを植え、最後にたっぷりの水をまいて花壇づくりは終了。参加した小学生たちも「楽しかった！」と満足した様子。三本塚町内会では花壇づくりを年3回行い、その際には50名ほどが集まるとのこと。そうした実績があるため、今回の花壇づくりも町内会の皆さんの協力により、滞りなく作業が進みました。

「あしたのみどりキャンペーン」では、これからも植樹や花壇づくりなどを通じ、杜の都・仙台ならではの、みどりをはぐくむための活動を支援していきます。

花壇づくりを始める前に、苗と一緒に参加者全員で記念撮影。この日は少なかったものの、普段の町内会活動には70世帯のうち50世帯ほどが参加するとか

駐車スペース脇の大きな花壇には、土を踏まないで雑草取りができるよう中央にレンガを。直線ではなくカーブを描くことで、花壇のアクセントになっています

殺風景な津波避難ビルに花とみどりを—。欠くことのできない地域の拠点となる建物だけに、大人から子どもまでカを合わせて花壇づくりに励みました

特別協賛社の取り組み紹介

JA全農みやぎ

未来へひろげよう。
みやぎの「環境保全米」の、やさしさ、おいしさ。

サンドウィッチマンによる
宮城の“やさしいお米づくり”の話

伊達&富澤　みなさんこんにちは。サンドウィッチマンです。

伊達　僕ら、「みやぎ米メッセンジャー」として宮城米をPRしているんですが、今日は、JAグループ宮城が生産者の方と取り組んでいる「環境保全米」について、簡単にご紹介したいと思います。じゃあ、富澤、説明よろしく。

富澤　「環境保全米」とは、みやぎの豊かな水と土を美しく保ち、自然豊かな環境を守るために、農薬や化学肥料の使用量を半分以下に減らして作られたお米のことなんです。

伊達　おっ、ちゃんとわかってるね！

富澤　環境に配慮したお米づくりは、自然を大切にできることはもちろんですが、消費者の皆さまに、より安全・安心なお米をお届けすることにもつながっているんです。

伊達　なるほど～。自然にも、僕らのお腹にもやさしいサイコーの取り組みといえるんじゃない？

富澤　そうなんです。水、土などへの負荷も少ないので、生態系の維持につながり、「環境保全米」を栽培している田んぼには、慣行栽培の田んぼより生き物の生息数が多いことがわかっているんです。

伊達　それはうれしい話だね～。まさに、環境保全！

富澤　今では県全体の水稲作付面積のうち約4割の田んぼで環境保全米が作られているんです。これは、全国的にみても先進的な取り組みなんですよ。

伊達　さすが、我らが宮城米！ってお前、カンペ持って話してたのかよ！どおりで、やけに流暢に「環境保全米」のご説明するとおもったわ。

富澤　てへ♪

伊達　「てへ♪」じゃねーよ！

富澤　伊達さんにも、環境保全米ぐらいやさしくなってもらいたいものです。

伊達　お前にやさしさは必要ないだろ！そんなことより、環境保全米のことを、もっとたくさんの方に知っていただけるように頑張らないと！

宮城の生産者は、人と環境にやさしい米づくりに取り組んでいます。農薬や化学肥料の使用量を通常の半分以下に減らし、手間をかけ、丹精こめて生産しています。それが「みやぎの環境保全米」です。

◀「環境保全米」はこのマークが目印です。

安心・安全「みやぎ環境保全米」の特徴
- 水や土を守り、生き物を守ることができる
- 安心・安全なお米をお届けできる
- 安定した食糧供給に貢献できる

みやぎは
米
なんです。
食材王国のほこり。みやぎ米
「みやぎ米」メッセンジャー　サンドウィッチマン

ひとめぼれ — 宮城を代表する主力銘柄
ササニシキ — 和食との相性抜群
つや姫 — 艶があって粒ぞろい
だて正夢 — もちもち食感の新銘柄

宮城米について詳しくは　http://m-hozenmai.jp/　あしたの元気 宮城米 検索
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1丁目2番16号 TEL.022-264-8381
JA全農みやぎ

企画・制作／河北新報社営業局